

## 学部創立20周年に寄せて：だいじなのは「理解する」こと(20周年記念特別号)

著者名(日)	野崎 昭弘
雑誌名	大妻女子大学紀要. 社会情報系, 社会情報学研究
巻	21
ページ	vii
発行年	2012
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1114/00005742/">http://id.nii.ac.jp/1114/00005742/</a>



## 学部創立20周年に寄せて ——だいじなのは「理解する」こと

大妻女子大学

元社会情報学部長 野崎昭弘

学部創立20周年、おめでとうございます。揺れ動く世界・日本の中で、むずかしい舵取りを続け、これまでしっかりした大学教育を続けてこられましたことに敬意を表し、お祝いを申し上げます。

この20年間には大きな荒波がいくつも大学を襲いました。「バブル崩壊」以後の世界的な経済危機ばかりか、昨年の東日本大震災と原発大事故、また揺れ動く初等中等教育の影響も深刻です。学部創設の頃には、「点数だけに偏るこれまでの教育観から抜け出し、個性を尊重する」ことをうたったいわゆる「ゆとり教育」が推進されていましたが、新しい評価法や個性の育て方が明示されなかったために「試験をしたら0点でした。とても個性的でした」というような教育放棄が一部で起こり、産業界からの反発もあって、今は真逆に、先生も生徒も「目先の点数」で強く縛られるようになりました。そのため、大妻コタカ先生が嫌われたという「点取り虫」が、全国津々浦々で育てられ、「結果を覚えて、点数を稼ぐ」ことばかりが優先されています。そのため2011年春に日本数学会が行った「大学生数学基本調査」では、「半数以上の大学1年生が、奇数・偶数の概念を正確に理解していない」ことが明らかにされました。次にその問題を眺めてみましょう。

偶数と奇数をたすと、答えはどうなるでしょうか。次の選択肢のうち正しいものに○を記入し、そうなる理由を下の空欄で説明してください。

- (a) いつも必ず偶数になる。
- (b) いつも必ず奇数になる。
- (c) 奇数になることも偶数になることもある。

こんな問題では「いくらなんでもやさしすぎる！」と思う先生も多いでしょうが、それでも正答率は（準正解を含めて）34%でした。実は予備調査では「有理数・無理数」にかかわる問題が検討されていたのですが、「無理数の例を3つ挙げなさい」という問い（正解はたとえば $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ 、 $\pi$ ）に対して「0、-1、-2」というような答えが続出したため、上記の問題に切り替えられたのだそうです。

「パターン化された問題の答えを暗記して、数多く答える」ことを鍛練されてきた学生たちに、事柄を原理・原則から理解させ、新しい問題を「意味を考えて、自力で解く」力をつけさせることが、日本の将来を左右する「運命の鍵」になるでしょう。険しい道ですが、これからも良心的な努力が続けられることを、大いに期待しております。